

機械工学実験 - 4 画像解析 検討ヒント

2002年5月21日 山下

40 ページ 実験 (その1) の検討(2)

$\cos\alpha$ と $\tan\alpha$ の間には, 以下の関係が成立します.

$$\tan^2\alpha + 1 = \frac{1}{\cos^2\alpha} \quad (1)$$

の関係が成立します.

この関係を用いると, テキストの(3)式より $\cos^2\alpha$ が求まりますので, z についての方程式を2つ求めることができ, 連立させて解くことができます.

また, z は正の値しかとらないことにも注意して下さい. 解は一意に定まります.

44 ページ 実験 (その2) の検討(2)

実験によって求められる2次曲線の方程式は $Ax^2 + Bxy + Cy^2 + Dx + Ey + F = 0$ ですが, 検討(3)において楕円の短軸と長軸の長さが必要となるため, 楕円の形式に変形することが必要となります. しかし, 方程式には Bxy の項 ($B \neq 0$) が含まれているため, このままでは楕円の形式 $\frac{(x-p)^2}{a^2} + \frac{(y-q)^2}{b^2} = 1$ に直すことができません.

そこで, 元の x - y 座標系から角度 θ だけ回転した新しい X - Y 座標系での楕円を考えることにより, xy の項を消去します (図1). 新しい座標系では, 楕円の長軸と短軸が座標軸と平行となるため, xy の項 (XY の項) の係数が0になります.

ここで, ある点 (x, y) を原点まわりに角度 θ だけ回転した新たな点の座標 (x', y') は, 以下の式で表すことができます (図2).

$$\begin{bmatrix} x' \\ y' \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} \cos\theta & -\sin\theta \\ \sin\theta & \cos\theta \end{bmatrix} \begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix} \quad (2)$$

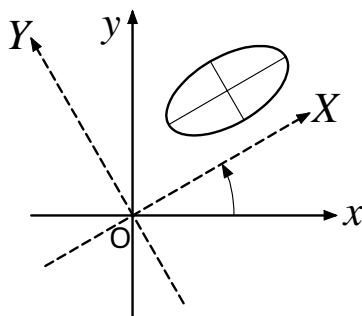


図1 座標系の回転

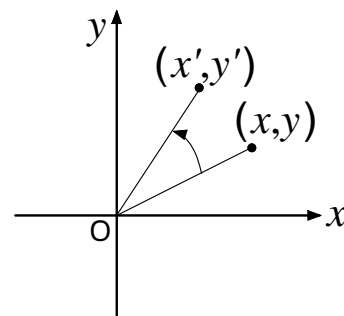


図2 点の回転

ただし，座標系自体が回転していると考えた場合と，点自体が回転していると考えた場合では，(1)式の左辺・右辺が何を表しているのかが異なるかもしれませんので注意して考えて下さい．

また，44 ページのヒント（ θ の値）についても，考え方によっては正負が逆になることがあるので注意して下さい．

44 ページ 実験（その 2）の検討(3)

実験中 size.exe によって算出される粒子の周囲長は，粒子の輪郭を構成している画素の数を表しています．また，面積は粒子の輪郭と内部の画素の数の和です．

楕円を当てはめて計算した円形度と，当てはめないで計算した円形度の値が異なっている場合には，その理由もレポートに書いて下さい．

試問内容の一部

- ・ 実験（その 1）の収縮回数決定方法（何故その回数にしたのか）
- ・ 実験（その 1）において，画像処理により数えた粒子数と各個人が数えた粒子数が異なる理由
- ・ 実験（その 2）の収縮・膨張回数決定方法（何故その回数にしたのか）
- ・ 実験（その 2）において，2 通りの方法で算出した円形度が異なる理由
- ・ 実験（その 2）において，2 通りの方法で算出した円形度のうち正しいのはどちらか？

再提出になるレポート

結果が書いてない（メモだけつけてある）．

画像をつけていない．

検討の答えを書いていない，あるいは間違っている．

その他

よくある間違い

実験（その 2）の検討(2)で求めた a と b の値が違う（その結果面積や周囲長が実験で求めた値と大きく異なる）．

原因：楕円の式を求めるために係数比較を行っているが，その方法が間違っている．

$$\text{例) } \begin{cases} 5x^2 + 10 = 0 \\ ax^2 + 6 = 0 \end{cases} \text{ を比較した結果, } \begin{cases} 5 = a \\ 10 = 6 \end{cases} \text{ となる.}$$

（正解は， $5 : a = 10 : 6$ より求める）